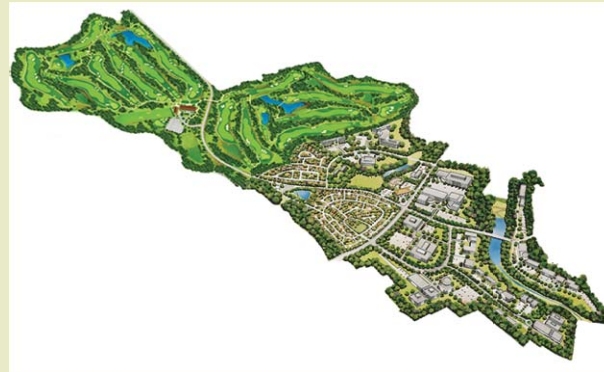


ちばリサーチパーク

所在地・・・千葉県佐倉市西御門、外
千葉県千葉市上泉町、外
面積・・・1,904,000㎡
実施主体・・・三菱地所株式会社



ちばリサーチパーク全景

整備の概要

整備実施期間・・・平成8年～平成12年度(1996年～2000年度)

①「エコトーン・エコロードの創出」に向けた整備手法

ちばリサーチパークにおけるエコトーン・エコロードの創出は、以下の整備を実施した。

《樹木・樹林への配慮》

- 郷土種の採用・表土の保存等により生態系の保全、復元に努めた。
- 全体として42.9%の樹林地を確保し、**現存する緑地の保全、復元**に努めた。
- 樹林地帯に新しく植栽する際には、**既存林の群落調査を行った上で区域内の種を採取し、苗に育ててから開発区域内に移植**するという方法で植生の復元を図った。

《緑化施設への配慮》

- 緑地・緑化施設として、**新設する道路の下にアニマルフットパス(エコロード)**を整備し、小動物の移動を少しでも確保した。
- 調整池用地に環境保全ゾーンを設け、また調整池に土を盛土する**道路計画を橋梁に変更**することで、**谷津部の湿地の減少面積を抑え**、生態系の保存を図った。

《水辺への配慮》

- 水没する水路部分に生息しているゲンジボタルの生態系に考慮し、**事前に上流部に水路を復元した場所(ピオトープ)に土砂ごと幼虫を移植(冬季)**し、**竣工後も数年間、生息状況のモニタリング**を行なった。
- 調整池からの放流水路に**魚道(段落水路)**を設置し、下流の水路との生物の連続性に考慮した。

② 整備時の協働者との関わり ⇒千葉県、千葉県立中央博物館

千葉県には、**環境影響評価書を纏めるための行政としての指導**してもらい、**千葉県立博物館には植物やゲンジボタルなどの昆虫の保全についての具体的なアドバイス**をもらった。

③ 整備時の留意点

* 復元する緑地(造成森林部)については、千葉県の指定する郷土種から選定し、苗木植栽を中心に行なった。



指標昆虫に設定したゲンジボタル

事業効果

- 開発区域内外の西御門谷津全体がゲンジボタルの生息地であり、工事完了後においても、調整池下流では、ゲンジボタルは毎年確認できており、谷津部の湿地の減少面積を抑えた結果、**良好な生態系の保存が計れたことがわかった。**

対象地の概要・・・研究・研修施設、ゴルフ場および住宅ゾーンを含む複合型の千葉市と佐倉市に跨る大規模開発である。環境保全に関しては、自然環境の積極的な保全活用として、**ゲンジボタルなどが発生する谷津部に調整池を配置し、谷津兩岸の自然斜面を保存**することにより環境保全に努めた。また、**雨水の地下浸透枿を採用**することにより雨水浸透量の確保に努めた。結果的に、調整池内のゲンジボタルの発生はあまり見られなくなったが、調整池下流部では、引続きゲンジボタルの発生がほぼ従来どおりみられている。

事業への取組みのきっかけ

環境アセスメントの調査において、**西御門谷津全体がゲンジボタルの生息地であることが判明し、行政と協議の結果、谷津中流部の道路を堰堤方式から橋梁に変更し、谷津環境の保全**に努めた。**環境変化に敏感なゲンジボタルを指標昆虫**として、**工事中、工事完了後にもゲンジボタル発生状況をモニタリング**することにより、環境への影響を判定した。

維持管理の概要

④「エコトーン・エコロードの創出」に向けた維持管理内容

ゲンジボタルの生息状況のモニタリング調査を、工事着手時・工事中・完了後の3年間行なった。また、**造成工事時に移植した貴重植物のモニタリング**を工事中に行った。

⑤ 維持管理時の協働者との関わり ⇒行政に移管済み(維持管理は千葉市、佐倉市の各担当部局による) 特になし

⑥ 維持管理時の留意点

* 西御門谷津部を含む緑地などは、佐倉市、千葉市に移管し、行政側の管理基準による維持管理が行われている。



道路堤体部を橋梁に変更した谷津保全ゾーン



道路下のエコロード



ホタル水路の復元

備考

その他

三菱地所にて、社会貢献の一環として、自然環境情報ひろば「丸の内さえずり館」を運営し、自然環境、環境保全、生物多様性などをはじめとした自然環境全般について、一般の方や社員に情報発信および啓発を行っている。(企画展示、セミナー、フィールドイベント等を開催し、環境情報を発信。)